

水痘（水ぼうそう）ワクチンの予防接種を受ける方へ

【苫小牧市健康支援課 ☎ 0144-32-6407】

1 水痘とは

- 水痘（水ぼうそう）とは、水痘-带状疱疹ウイルスに初めて感染した時にみられる急性の感染症です。直接接触、飛沫感染、空気感染によって広がる、感染力の強い感染症の一つです。一度感染すると、一生、体の中に潜伏感染し、加齢や免疫力の低下により再活性化し、带状疱疹を発症します。
- 水痘の潜伏期は通常2週間程度で、かゆみを伴う特徴的な発疹が主な症状です。また、発熱を伴うこともあります。発疹は、斑点状の赤い丘疹から始まり、3～4日で水疱（水ぶくれ）となり、最後は痂皮（かさぶた）を残して治癒します。
- 学校保健安全法等に基づき、保育所、幼稚園、学校への登園・登校は、全ての発疹が痂皮化する（かさぶたになる）まで停止となります。
- 成人が水痘にかかると、小児より重症になりやすい傾向にあります。

2 水痘ワクチンについて

水痘-带状疱疹ウイルスを弱毒化して作った生ワクチンで、日本で世界に先駆けて開発され、平成26年10月に定期接種化されました。このワクチンを1回受けた方のうち、約20%は後に水痘にかかることがあります。かかっても軽く済むとされていますが、確実に予防するため、日本では定期接種として2回接種することとしています。また、水痘患者に接触した場合、3日以内にワクチンを接種すれば発症を予防できるとされ、院内感染の防止にも使用されています。

3 副反応について

健康な小児、成人では副反応はほとんど認められませんが、時に発熱、発疹がみられ、まれに局所の発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）がみられます。なお、重篤な副反応の発生頻度は、10万接種あたり0.8となっています。

接種スケジュールについて

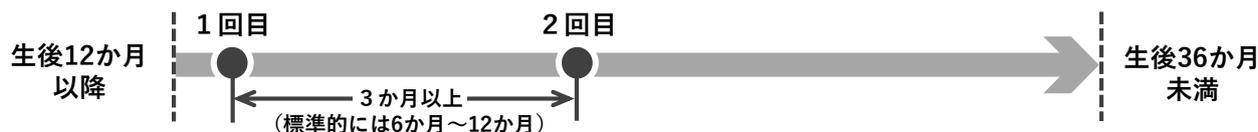
※水痘に罹患した（かかった）ことのあるお子さんは、定期接種の対象となりませんので、ご注意ください。

【定期予防接種として受けられる期間】

生後12か月から36か月に至る（3歳の誕生日の前日）までに2回接種

【標準的な接種期間】

- (1) 1回目：生後12か月から15か月に至るまで
- (2) 2回目：1回目接種後、3か月以上（標準的には6か月～12か月）の間隔をあける



《 予防接種救済制度について 》

万が一、定期予防接種が原因で健康被害が発生した場合は、予防接種法に基づく救済制度があります。この救済制度の請求について、厚生労働省が予防接種との因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当等の給付を受けることができます。

裏面もお読み
ください。

予防接種を受ける前の注意事項

予防接種を受ける前のチェック項目

- お子さんの体調はよいですか。
- 今日受ける予防接種について、必要性や効果及び副反応など理解していますか。
わからないことがあれば、質問をメモしておきましょう。
- 『母子健康手帳』は持っていますか。
- 予診票の記入は済みましたか。
- 保護者の方が同伴できない場合には、代理人の方に委任状を渡しましたか。

次のような方は予防接種を受けられません

- [1] 接種会場（医療機関）で測定した体温が37.5℃以上のお子さん
- [2] 重とくな急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん
- [3] その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがあるお子さん（※「アナフィラキシー」とは、通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。）
- [4] その他、医師が不適当な状態と判断した人

次のような方は予防接種を受ける前にお医者さんとよく相談してください

- [1] 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障がいなどで治療を受けているお子さん
- [2] 予防接種で、接種後2日以内に発熱の見られたお子さん及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常が見られたお子さん
- [3] 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん
 - けいれん（ひきつけ）の起こった年齢、そのとき熱があったか、その後起こったか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ず、かかりつけ医と事前によく相談しましょう。
- [4] 過去に免疫不全の診断がなされているお子さんや近親者に先天性免疫不全症の者がいるお子さん（例えば、赤ちゃんの頃、肛門の周りにおできを繰り返すようなことがあった方の場合）
- [5] ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん

予防接種を受けた後の注意事項

- [1] 接種を受けたあと30分間程度は、接種した医療機関でお子さんの様子を観察するか、先生とすぐに連絡を取るようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- [2] 接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- [3] 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- [4] 接種当日は、激しい運動は避けましょう。
- [5] 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- [6] 異なるワクチンの予防接種を受けるまでに必要な間隔は次のとおりです。

※令和2年10月に接種間隔が改定され、生ワクチン（注射）のあとに生ワクチン（注射）を接種する場合以外は、制限がなくなりました。

異なるワクチンの接種間隔パターン

※以下のパターンは、あくまでも異なるワクチンを接種する場合の接種間隔です。
同一ワクチンの接種間隔は、各ワクチンごとに定められた接種間隔に従ってください。

